

## ニュージーランドが教えてくれたこと

須藤 早貴（東北公益文科大学公益学部2年）

えっ、もう着くの！？ 時差でいつ寝ればいいのかわからないまま飛行機に乗っていた私達は、最高に眠い状態でニュージーランドに着いた。しかし、初めての外国の景色に眠気も吹っ飛んだ。車から見える道は見渡す限りの牧場。かわいい家たちがびっしり並ぶ住宅街。カラフルな看板や店ばかりの町中。季節は夏だし、周りからは英語しか聞こえてこない。日本とはまるで違った。

ワイカト大学に着くと、学校の中を案内してもらった。話では聞いていたが、森の中を歩いているような感覚になる。その中に、地図がないと迷ってしまうほどの建物がある。とても学校とは思えなかった。クラス分けのテストをしたあと、ホストマザーの **Rebecca**（レベッカ）が迎えに来てくれた。家まで2人で歩いて帰った。初めは何を話せばいいかわからなかったが、**Rebecca**（レベッカ）がニュージーランドについて説明してくれ、日本についてもいろいろ質問してくれた。私のホームステイ先の家は学校から歩いて20分くらいのところで、バスに乗らずにすんだ。家に着くと2歳の **Tahria**（タリア）とそのお母さんの **Sarah**（サラ）が出迎えてくれた。しばらくしてホストファーザーの **Mario**（マリオ）が仕事から帰ってきて、みんなでドーナツ屋に行き、また楽しく夕食を食べた。

**Tahria**（タリア）は私にすぐなついてくれて、いつも寄ってきてくれる。そのおかげで緊張感なく家で過ごすことができた。かわいくて仕方がないからいつも遊んでいた。**Sarah**（サラ）は私と年が近く、ニュージーランドで流行っている音楽や映画を教えてくれた。日本のアニメにも詳しく、ポケモンやワンピース、ナルトなどが有名らしい。**Mario**（マ

リオ) はまじめで優しいお父さんで、日本や日本の文化に興味を持ってくれ、いつも「日本ではどうなの？」と質問してくれる。また私と同じく歌やギターが好きで、よく一緒に歌番組を見たり、私が知っている洋楽と一緒に弾き語ったりした。日本の歌も聞いてくれた。音楽は世界共通なのだ実感することができ、本当に楽しい時間を過ごした。

ホストファミリーと過ごした時間の中で一番心に残っているのは、週末にオークランドに行ったことだ。朝早く家を出て車でオークランドの中華料理屋に向かう。着くと Mario の友達がたくさん来た。ニュージーランド人、中国人、ベトナム人、ブラジル人、フィリピン人、ケニア人、そして日本人。様々な人種の人たちがそろってみんなでテーブルを囲んだ。大勢の人の中で自己紹介をしてとても緊張したが、日本の柔道にとっても興味を示してくれた。柔道をやっていてよかった！と心から思った。食事が終わった後、ホストファミリーの親戚の家に行った。どんどん人が増えていって気づいたら20人くらいになっていた。子供たちと映画を見たり、バーベキューをしたり、みんなで歌を歌ったり、楽しくてあっという間に夜になっていた。日本では親戚同士で集まっても、同年代ばかりで話してしまいがちだ。しかしニュージーランドの家族は全員で同じ歌を歌い、いい雰囲気を感じた。帰るときにはみんな「Bye-Bye Saki」といってハグしてくれた。さっき会ったばかりの私にもフレンドリーに接してくれ、気にかけてくれ、とても温かい気持ちになった。

ニュージーランドに行って、家族同士の仲が良いことにとっても驚いた。ありがとう・ごめんなさい・うれしい・悲しい・好き・嫌いははっきり伝えられるからこそ、年齢や性別の壁を感じずに会話ができるのだと思う。日本人は、シャイなところがあり、言葉にせず心にしまっておくことが多い。例え血のつながった家族や、大親友でもなかなか素直に伝えられない。ニュージーランドの家族は、言葉にして伝えることの大切さ

を教えてくれた。

ニュージーランドでの生活で、一番多くの時間を過ごしたのは大学だ。ワイカト大学はとにかく広くて様々な施設がある。全部見たかったが多すぎて無理だった。いろいろな道を通ろうとしてよく迷子になった。木や草など自然が多いし、グラウンドもとても広い。しかしすべてきれいに整備されていて毎日過ごしやすかった。学生や先生はみんなフレンドリーで親切だし、とても素晴らしい大学だった。

午前の授業では、違う学校の日本人やサウジアラビア人と英語の基本などを学んだ。英語力が足りず、辞書なしではついていけなかった。午後は、午前の教室から歩いて20分はかかる教室まで行き授業を受けた。学校の敷地が広すぎると不便なこともある。午後は基本的に英語で話す授業で、先生が出したお題についてグループで話し合う。周りの人はみんな英語がぺらぺらで自分からどんどん話している。しかし私は先生が何を言っているのかも理解できず、自分の英語力のなさに愕然とした。初めは何もできなかったが、話しているうちに少しずつ理解できるようになって成長を感じた。英語力が格段に上がったというわけではないが、わからなくても自分から聞いて自分から伝えることができるようになっていった。難しいことは言えなくても、自分のわかる言葉で伝えようとする事の大切さを知った。間違っていたら、間違いを教えてくれるから成長できるし、わからないことを恥ずかしがることはないのだと思えた。最後には韓国人や中国人の友達もできて、とても自分のためになったし、楽しい授業だった。

金曜日の午後はアクティビティーで、ビーチ、ツチボタルが生息する洞窟、乗馬を体験することができた。特に印象に残っているのはビーチだ。水が透明で、感動して思わず服のまま飛び込んでしまった。みんなにワイルドと言われたが、後悔はしていない。こんなにきれいな海を見

たのは初めてだった。こんなところに住みたいと心から思った。

私のホストファミリーの家では夕食の時間が早い。だから夕食までに帰るのに苦労した。また休日はなるべくいろいろなところに行った。二回目の週末は、美咲のホストマザーが公益大の3人を家に泊めてくれた。私のホストファミリーはフィリピン人で、みんなの家と食事が少し違っていたから、本場のニュージーランド料理をご馳走になってうれしかった。4人で夜まで話したり遊んだりできてとても楽しかった。次の日4人でそのままオークランドに行った。私たちがいたハミルトンとは違って高い建物がずらっと並んでいて「都会」というかんじだった。日本でいう東京タワーのようなスカイタワーに行った。てっぺんから見た景色は、建物や道路だけではなく海や船が見えて本当にきれいで、写真を撮るのをやめられなかった。ニュージーランドには「お土産」という文化がなく、そういう物はなかなか売っていない。オークランドに来てやっとお土産が買えた。有意義な休日だった。

ある休日には、一人でバスに乗ってショッピングモールに行った。言葉も道もよくわからない異国の地に一人でいるのに不安や恐怖がまったくなかった。なぜだろう？それは、わからないことや困ったことがあっても何とかできるという確信があったからだ。今までのニュージーランドでの経験で、わからなかったり間違ったりしたとき、必ず誰かが親切に教えてくれたのだ。私のような外国人のつたない英語を聞いてくれ、理解しようとしてくれた。たくさんのニュージーランド人の優しさにふれてきたからこそ、積極的に自分のやりたいことができた。

私は自分の考えを人に伝えるのが苦手で、はっきりとNOと言えない性格だから外国でやっていけるか心配だった。しかし、ニュージーランドではYES/NOをはっきり言わないと伝わらないしそれがふつうだから、私も自然にできていた。日本にいる時より素直で自分らしくいられ

たのだ。日本人は、はっきり言わずに雰囲気で察しなければいけない場合が多々あるからどうしても気を遣ってしまう。ニュージーランドで、人に合わせることはない、自分は自分でいいのだと思えた。

この3週間で、飛行機が飛ばなかったり、携帯電話を落したり、夜の街で迷子になったり、空港への送迎の運転手が寝坊したり、スーツケースが消えたり、様々なトラブルがあった。しかし、そのたびに人の温かさにもふれることができた。公益大から一緒にニュージーランドに行った3人との絆も深まった。行く前は話したこともなかった人もいたが、今では兄弟のように仲がいい。今年は4人という少人数だったが、だからこそよかったことがたくさんあった。この4人でニュージーランドに行けて、本当によかった。

ホストファミリー、ワイカト大学のみなさん、一緒に留学したみんな、留学を支えてくださった全員に感謝している。私はニュージーランドが大好きだ。休日に4人でロトルアという観光地に行く予定だったのに嵐で行けなかったし、バンジージャンプもやっていない。やり残したことがたくさんある。3週間は、あまりにもあっという間だった。だから将来、もっと英語で話せるようになって絶対またニュージーランドに行こうと思う。